

「マグロがある、だけで終わらないで」

# これからの観光形態

## 新翔高 神戸夙川学院大連携授業

県立新翔高校（尾崎元治校長、生徒444人）は12日、総合学科棟のキャリア教育室で、神戸夙川学院との高大連携授業が行われ、1年生156人が同大教授の講義「世界遺産熊野と観光」を受けた。

向校は、7月に神戸夙川学院大学と「観光」に関する授業で連携していく協定書の調印を行い、高校に大学教授を招いての高大連携授業や高校生が大学のオープンキャンパスへの

参加などを実施している。この日の授業では、講師を務める小野田金司教授のほか、同大がパートナーシップ協定を結んでいる串本町の「民泊」に協力している大学2回生4人と教員2人が出席。

小野田教授は「10年前、私が旅行会社に勤務していたとき、南紀熊野体験博（当時16市町村）の体験型観光をコーディネートした。170の体験型観光があり、この中で串本町が東京周辺の修学旅行を誘致するプロモーションを行ってきた。去年くらいから効果が表れ今年、埼玉県内の高校など13校が来る。カヌーやシーカヤックなどを手伝う若い人がいるので、9月から10月にかけて計5回手伝う」と説明。

初めてサポートした「民泊」について、大学生が「埼玉は海がなく、釣りをした子がほとんどなかったのでもんな楽しんでいた」「漁師さんの家に泊まって、魚料理を食べた。おいしかった」「いままで体験できなかった話が聞いた。タイのさばき方を教わり家でできない体験ができた」「埼玉の高校生は田舎で暮らしたことがないので、こんなに静かな所でごはんを食べるのは初めてと言っていた」などと感想。小野田教授

は「教室で釣りのやり方を教わっても楽しさはわからない。実際にやってみて楽しいことがわかる。これが観光の魅力」と話した。

ペルーの世界遺産マチュピチュのガイドを研究している大学教員は「観光客が多く年間何十万人が来る。現地はガイドが充実している。英語やフランス語、イタリア語など観光客に合せてガイドをセットしている。熊野でも（外国語が話せる語りの部）需要があると思う。観光にとつて、これから外国語ができることが大切になる」と語った。

また、マーケティングを専門とする大学教員は「大都会は人の目を気にせず自由だが、人との触れ合いが少なく孤独感が強い。一方、田舎に暮らすと、たとえばパチンコに行ってもすぐ人に見られてしんどい、自由がないが触れ合いがある。このバランスがいま世界的に崩れている。足りないものを交流によって補うのが観光と想っている」と話した。

また、大学生たちはそれぞれが企画したニューツーリズム（新しい観光）、ヘルスツーリズム（医学的な根拠に基づく健康回復や維持、増進につながる観光）、エスニックツーリズム（文化体験観光）を紹介。小野田教授はこれらに加えて工場見学などを産業界のニューツーリズムについても述べ、「みなさんが大学生になって熊野はどんな所と聞かれたとき、マグロがある、だけで終わらないでほしい。みなさんが案内できるように、これから観光のおもしろさを勉強してもらえれば」と生徒に期待した。



新翔高校で開かれた高大連携授業

ことを強調。

新翔高校は昨年4月に総合学科に改編し本年度、2年次の選択科目の一つとして「観光基礎」を開講。神戸夙川学院大は昨年4月、ポर्टアイランドに観光文化学部を開設。同大学短期大学の系列校。